

セコム株式会社  
株主通信

6月  
2008年

第47期決算報告

SECOM

## セコムの ブランド価値を高める

「セコムだから安心」  
という社会からの「信頼」を  
いかにして獲得してきたか、  
その印象の総和としてのセコム・ブランドを  
いかにして高めていくかについて、  
社長の原口兼正から  
ご説明させていただきます。

セコム株式会社 代表取締役社長

原口 兼正



「セキュリティ事業のトップ企業」というのが  
社会のセコムに対するイメージですが、  
それについてはどう思われますか。

私たちが提供しているセキュリティサービスは社会のインフラになりつつあります。そういうご評価はありがたいことですが、ほかにも、防災、メディカル、損害保険、地理情報サービス、情報系事業などを展開しています。メディカルでいえば、全国40カ所に訪問看護ステーションを設置して、訪問看護サービスを提供していますし、遠隔医療支援サービスも提供しています。また、首都圏で有料老人ホームも運営しています。たとえば、ホームセキュリティのご契約先で、ホームセキュリティと「ココセコム」を利用され、「セコム安心マイホーム保険」に入られているお客様がおられますが、セコムに連絡すれば、地域は限られるものの、訪問看護サービスや有料老人ホームも利用できます。このように、セコムグループが提供している複数の「安全・安心」サービスをワンストップで利用できること、これこそ私たちがめざしている「社会システム産業」です。私はこうした地域を増やしていこうと考えています。

地域ということでは、東京の世田谷区と港区で  
24時間365日のパトロールがスタートしましたが、  
非常に評判がいいそうですね。

世田谷区は昨年4月から、港区は今年4月から、それぞれの区から受注してセコムの社名入り車両でパトロールを開始。住民の方々から「巡回しているだけでも犯罪の抑止力になり安心」と喜ばれています。また、身近に感じていただくことで、新たなホームセキュリティのお客様のご契約にもつ

ながっています。このパトロールは地域におけるセキュリティコミュニケーションのシンボルといえます。

**そうした公共的な仕事を委託されるのは、セコムのサービスの質が高いことの証ですね。セキュリティサービスを例に、「品質の向上」への取り組みについてお話しください。**

欧米のセキュリティ会社では、安全機器は売り切りで、機器と管制センターを通信回線で結んで監視、異常が発生すると警察に通報するという方式が一般的です。これに対してセコムでは、研究開発から、製造、販売、セキュリティプランニング、監視、緊急対処、メンテナンスまで、セコムグループで自己完結的に行っています。それは一貫責任体制ではじめて真に「安全・安心」を提供したことになるからです。この体制が常にクオリティの高いサービスを提供できるベースになっています。

それと、時代が変わり社会が変わると犯罪の様態も変わります。今日では犯罪が巧妙化・凶悪化・短時間化しているため、これに対抗するためにセキュリティサービスの質を高めてきました。たとえば、以前は異常信号のみをコントロールセンターに送っていましたが、今は画像センサーで直接侵入者を分析して見つけ、異常信号とともにその画像と音声を送る「セコムAX」というシステムを開発、迅速かつ的確に侵入者を把握し対応できるようになりました。

また、昔は夜間・無人時の侵入を監視していればよかったわけですが、今は昼間・有人時の安全に対するニーズが高まっています。このため24時間営業店舗などでは、不安を感じたときは要請ボタン、危険を感じたときは非常ボタンを押すと、自動的に監視カメラの画像がセコムの画像セ

ンターに送信され、管制員が音声で警告し、必要に応じて緊急対処員を急行させ、110番通報します。

同様に、家庭でも人がいるときに押し入って危害を加える事件が続発したため、顔検知機能付きインターホン「セキュリフェースインターホン」、庭に設置した監視カメラの画像を画像センターに送る「屋外画像監視サービス」、叩いても簡単には割れず貫通できない防犯合わせガラス「SECOMあんしんガラス」などの防犯強化商品を開発し販売しています。「セコム・ホームセキュリティ」にこれらの商品を付加することで、家庭の安全の質は一層向上しました。

**そうした品質向上へのたゆみない取り組みがセコムに対する信頼感を生み、セコム・ブランドが形成され続けているわけですね。**

お客様からよく「セコムだから安心」というお言葉を頂戴しますが、この評価はサービスの品質だけから得られているわけではありません。「安全・安心」は形のないものだけに、サービスの提供に関わっている、営業員、設置工事担当者、管制員、緊急対処員など社員の質が決め手になります。それだけに社員教育を通して「正しさの追求」などの経営理念や職業倫理の徹底に努めてきました。こうして良質なサービスと人材とが相まって信頼感を醸成し、その信頼の総和としてセコム・ブランドは形成され続けており、これはセコムの大きな資産です。逆に少しでもゆるむと後退してしまいます。これから「社会システム産業」が本格展開されるようになると、グループ企業の社員も自らを律してお客様からの評価の向上に努め、セコムグループ全体でセコム・ブランドをさらに高めていきたいと思えます。

# 社会を支えるセキュリティ事業

私たちセコムは、1962年(昭和37年)に

日本で初めての警備保障会社として創業し、46年目を迎えました。

1982年(昭和57年)に「安全産業元年」の宣言を行い、

1989年(平成元年)には「社会システム産業元年」を宣言しました。

私たちのビジョンであるこの「社会システム産業元年」を宣言してから、来年1月で20周年になります。

そこで「社会システム産業」の現状を2回に分けてご紹介します。

今回は、「社会システム産業」の中核を成すセキュリティ事業が社会の中で  
いかに広がっているかについてご紹介します。

## 安全・安心をますます広く深く

「社会システム産業」は一言でいえば、社会にとって、より安全・安心で、より便利で、より快適なサービスシステムを開発し、それらを複合的・融合的に提供する産業です。

この「社会システム産業」を実現するために、私たちはセキュリティのほか、防災、メディカル、損害保険、地理情報サービス、情報系などの事業を推進しています。これらはすべて広義の「安全・安心」事業です。メディカルは人の健康や命に関わるという点で究極の安全・安心事業であり、保険は何か事が起きたときに損害を補償する事業であり、情報系は情報の安全を守る事業です。こ

れらの事業分野で有益なサービスシステムを開発すると同時に、それらを部分的ですが複合的・融合的に提供しています。

その一例がセキュリティと保険の一体提供です。事件や事故を未然に防ぐセキュリティと被害にあったときの損害を補償する保険を組み合わせて提供すれば、安心感は高まります。また、セキュリティによってリスクが少なくなる分、保険料は安くなります。複合化・融合化のメリットはそれだけではありません。セコムと契約すれば、ワンストップで、家庭の安全、屋外の安全、心身の安全が得られ、しかも万一のときの補償が付いているトータルなサービスを利用できるので、便利です。

つまり、「何か不安を感じたり、困ったりしたときは、セコムに

連絡すれば解決してくれる」のが、「社会システム産業」です。この20年でその姿が誰の目にもハッキリ見えるようになってきました。

## ここにもセコム、独自の安全・安心提供

さて、その「社会システム産業」の真価を理解していただくには、個々の事業がどのように広がり、どのように進化し、どのように成果を上げているかを見ていただく必要があります。ここでは、比較的新しく、社会的に有意義であってもあまり知られていないセキュリティ分野の取り組みをご紹介します。

## “公共のセキュリティ”という新しい領域に進出

●PFI刑務所の運営——昨年、民間の資金や経営・技術力を活用したわが国初のPFI刑務所「美祢社会復帰促進センター」が山口県美祢市に誕生し、大きな話題を呼びましたが、その建設と維持管理・運営をセコムを代表企業とするグループが落札、昨年4月1日から業務を開始しました。また新たに、栃木県さくら市に建設されたPFI刑務所「喜連川社会復帰促進センター」と、近くの大田原市にあ

る既設刑務所「黒羽刑務所」の安全管理と総務支援を落札、昨年10月1日から業務を開始しました。

●東京都区内のパトロール——昨年4月、東京都世田谷区の委託で、区内の公道や公園などを、セコムの社名入り車両で24時間365日パトロールする「世田谷区安全安心パトロール」を開始。また、港区でも今年4



PFI刑務所「美祢社会復帰促進センター」



世田谷区内でパトロール中のセコム車両

月から、区内全域の「夜間パトロール」、下校時の小学生を見守る「通学路パトロール」、児童館や保育園、幼稚園、公園などを監視する「子どもの施設巡回パトロール」を行う「みんなとパトロール」を開始しました。

PFI刑務所「喜連川社会復帰促進センター」



●金融機関「こども110番」——子どもの緊急避難場所としてATMコーナーを活用する「こども110番」が、昨年4月から岩手銀行で始まりました。これはATMコーナーに「セコムIX」を導入、子どもが駆け込んで「こども110番ボタン」を押すと、入口のドアが施錠され、セコムの画像センターで監視。犯罪者が子どもと一緒にいる場合は、管制員がスピーカーから「子どもから離れなさい」と威嚇し、必要に応じて緊急対応員を急行させ、110番・119番通報するというものです。その後、仙台農業協同組合、松山市農業協同組合でも採用され、地域の人々から喜ばれています。

## “生活を支えるセキュリティ”の拡大・深化を推進

●コンビニATM——現在、コンビニATMの台数は約3万2000台で、セコムはその6割に当たる約1万9000台のATMの安全管理と運営管理を行っています。ATM本体には破壊行為を検知するセンサーが取り付けられ、異常を検知するとリアルタイムで信号がセコムのコントロールセンターへ送信されます。また、店員が非常通報ボタンを押した場合も異常信号が送信され、セコムの緊急対応員が駆けつけます。ATMの障害対応、現金補充もセコムで行っています。

●セキュリティタウン——近年、住宅街の各戸だけでなく街全体の安全も守るセキュリティタウンが注目を集めています。セコムが手がけた武蔵野市の「桜の杜」（積水ハウス）を例にその概要をご紹介します——住宅街の入口4カ所にゲートが設けられ、来訪者はロビーインターホンで訪問先に連絡してゲートを開錠してもらい、居住者は非接触ICカードで開錠して入ります。各住戸の玄関には顔検知機能付きインターホンが設置され、来訪者をチェック。居住者は指紋照合システムで家に入ります。各住戸には「セコム・ホームセキュリティ」が設置

され、1階には防犯ガラス、住宅の外周にはスポットライトカメラなどが設置されています。さらに、庭園には監視カメラが設置されるなど、最高レベルのセキュリティタウンとなっています。このほか、三鷹市の「三鷹の杜」（東京建物）、目黒区の「ファインコート自由が丘」（三井不動産レジデンシャル）など数



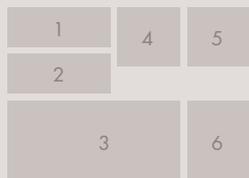
- ① 子どもの緊急避難場所となる「こども110番」
- ② コンビニATM
- ③ 先進のセキュリティタウン「桜の杜」
- ④ 家事サポート（お手伝いサービス）
- ⑤ 「セコムロボットX」
- ⑥ 用途が広がる「ココセコム」



多くのセキュリティタウンづくりに関わり、コミュニティの安全強化に貢献しています。

●**ますます安心で便利になるホームセキュリティ**——「セコム・ホームセキュリティ」のお客様には三つの付加サービスを提供しています。一つは健康維持・増進に役立つサービスで、予防

医療・救急医療関連サービス、医療機関・専門医の紹介サービスなどを提供しています。一つは暮らしの中での困り事を解決するサービスで、「あんしんサポート」「トラブルサポート」「家事サポート」を提供しています。もう一つは「家庭向け緊急地震速報サービス」で、これは揺れの到達予想時刻までの秒数をカウントダウンし、身の安全を確保していただくサービスです。



## 「先進のセキュリティ」で 新しい市場を創造

●**ますます用途が広がる「ココセコム」**——子どもや高齢者の連れ去りや行方不明、自動車やオートバイの盗難を防止するサービスとして発売されましたが、お手柄事例が続出、お客様から「こんなことに使えないか」という要望が次々と寄せられるようになり、用途が拡大。今ではバッグの紛失や盗難、ATM

の破壊・持ち去り、ペットの行方不明対策としても利用され、さらに最近では若い女性の防犯用として、また出張や外出の機会が多い経営者やビジネスマンの非常通報用としての利用も増えています。

●**屋外用画像監視ロボット「セコムロボットX」**——特徴の一つは、「動く監視カメラ」であること。全方位カメラとズームカメラで監視しながら、決められた巡回コースを時速10kmで自動走行、暗闇でも、また固定型監視カメラでは死角になる場所や人の立ち入りが危険な場所も監視します。もう一つは、人の代わりが確実にできること。不審者を検知すると、「身分証明書を提示してください」と音声で警告、それを無視して逃げ出すと追跡、必要に応じて音声と光で威嚇し、さらに発煙装置から煙を噴射して不審者の視界を奪い、犯行を困難にします。すでに広大な敷地を持つ工場やセンターなどで立哨と巡回警備を行い、高い評価を得ています。

## 膨大な安全のマーケット、挑戦は続く

このように、高まる社会の安全・安心ニーズに応じて、セキュリティ事業の対象範囲を広げ、サービスシステムの種類と質を充実させ、新しい市場を創造しながら発展を続けています。その成果は顕著で、現在、セキュリティサービスのご契約先は、企業向け約75万9000件、家庭向け約42万2000件で合計約118万1000件、海外11カ国合計は約55万件です。この件数に、「ココセコム」のご契約先約34万8000件を足すと、総合計は約207万9000件となります。しかし、わが国の総事業所数600万、総世帯数4900万から見ると、セキュリティのマーケットは今なお膨大です。私たちはこれからも社会にとって有益なサービスシステムを開発し、安心・快適で幸せな社会を築く「社会システム産業」の実現に邁進していきます。



# 高度経済成長を続ける中国と東南アジア諸国で急速に広がるセコムの安全・安心ネットワーク



セコムは海外では11の国と地域でセキュリティ事業を展開していますが、近年とくに事業拡大が目立つのが、中国と東南アジア諸国です。

急速な経済成長に伴って都市部での犯罪が増え、現地企業の間でセキュリティ需要が高まっていることと、

日系企業をはじめとする外資系企業の進出が急増していることが主な要因です。

す。セコムのセキュリティに対する評価は非常に高く、このところ急速にご契約先が増えているため、今後、拠点を倍増して市場を開拓していく計画です。

なお、上海にある「上海能美西科姆消防設備」が、オンラインセキュリティ用機器と、監視カメラ・出入管理システム・屋外用センサーなどの安全商品を製造し、中国と東南アジア各国に供給しています。

## 中国では毎年二ケタの伸びで契約件数が増加

中国に進出したのは1992年で、北京に「西科姆中国」を設立しました。この会社は、中国と同等とみなすという「内国民待遇」を受けた日本企業第1号だったため、当時話題になりました。

翌年、持株会社の認可を得て、体制が整ったため、大連で現地企業と合併で会社を設立、中国では初の企業向けオンラインセキュ

リティシステムの提供を開始しました。以後、経済発展が著しい沿海部の主要都市、北京、青島、上海、深圳に会社を設立し、オンラインセキュリティシステムの提供を開始、現地企業や日系企業を対象に契約先を増やしていきました。

その後、それらの都市の周辺部にある瀋陽市、昆山市、無錫市、杭州市、天津市、広州市などに会社や支社を開設し、現在21都市で業容の拡大をはかっています。今後、内陸部の主要都市にも拠点を拡大していきま

## 東南アジアではセキュリティの普及期に突入

東南アジアで最初に進出したのはタイで、1987年9月、タイ有数の企業グループで、消費財の製造販売最大手のサハパタナグループと合併で「タイセコムピタキイ」を設立しました。21年たった現在は、バンコク市内と郊外の工業団地群、またチェンマイ、ブーケット、ハチャイなどの地方都市で、オンラインセキュリティシステムと常駐警備を提供しています。アジアでは韓国、台湾、中国に次ぐ規模です。



「北京京盾西科姆電子安全有限公司」のピートエンジニア(左)とコントロールセンター(右)

なお、2001年3月、セコムインドプラタマと警察財団との合併で常駐専門会社「セコムバンヤカラ」を設立しています。

次いで進出したのはマレーシアで、1991年4月、ライオングループ、警察共済会との合併で、「セコムマレーシア」を設立。首都クアラルンプールを中心にオンラインセキュリティシステムの提供を開始しました。2002年にはライセンスを取得して常駐警備も始めました。

その翌年には、マレー半島最南端の島国・シンガポールに進出。同国の警察共済会と合併で、「セコムシンガポール」を設立し、オンラインセキュリティシステムと常駐警備の提供を開始しました。シンガポールは英国に統治されていた時代が長かったため、すでに欧米系のセキュリティシステムを提供する会社が存在していました。しかし、そのシステムはセンサーなどの安全機器は売り切りで、お客様から要請があれば機器

を通信回線で結んで24時間監視を行うが、異常が発生したときは緊急対応は行わず、警察に通報するという方式でした。このため、機器の設置から24時間監視、緊急対応、保守点検まで行うセコムの「トータルパッケージ方式」はなかなか理解されませんでした。普及が進むにつれてセコム方式に対する評価が高まっていきました。今では、銀行、オフィス、ショッピングセンター、倉庫、工場、学校など、多くの契約先を獲得しています。

インドネシアでは1994年5月、「セコムインドプラタマ」を設立、同国では初の企業向けオンラインセキュリティシステムの提供を開始しました。今日ではセキュリティのリーディングカンパニーとして、首都ジャカルタを中心に事業拡大をはかっています。

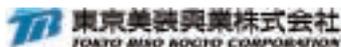
最も新しい進出先はベトナムで、2006年、ホーチミン市に、ベトナムの大手セキュリティ会社ロイヤルセキュリティサービスとの合併会社「セコムベトナム」を設立しました。ベトナムでは中小のセキュリティ会社が急増していますが、オフィスや工場のセキュリティは常駐警備が中心で、オンラインセキュリティはほとんど普及していません。現在は、外資の参入が規制されているため、セキュリティサービスのコンサルティングおよびソリューション提案を行っていますが、将来はオンラインセキュリティシステムの提供を中心に事業の拡大をはかっていく計画です。

中国や東南アジアでのセキュリティ事業は、草創期を過ぎ、成長期に入りました。

## 公開買付けにより、総合ビル管理業大手 東京美装興業(株)の株式を追加取得

セコムは、今年3月、東京証券取引所2部上場で、わが国ビルメンテナンス業パイオニアの一つである総合ビル管理業大手、東京美装興業の株式を、公開買付けにより追加取得しました。この結果、発行済株式総数の36%を保有しております。

セコムは2007年5月に東京美装興業への出資比率を引き上げ、筆



頭株主となったほか、同社を持分法適用関連会社としました。セコムと東京美装興業はこれまで、友好的な関係を築き、施設の総合管理業務において相互補完関係にあります。

今後は、両者の間の提携関係をより強化し、施設の総合管理業務における協力を拡大化します。また、商品販売における相互の営業基盤を活用し、両者の事業間のシナジーにより発展の見込まれる事業の検討を進めてまいります。今後も事業協力を深めていくことで、両者の業容拡大・収益性の向上を図り、相互に企業価値を増大させることをめざしてまいります。



設備管理業務中の  
東京美装興業社員

## セコムと旭硝子(株)の提携で記者説明会を開催 リフォーム市場にも「安全・安心」を提供

セコムと旭硝子は、今年2月、東京・原宿のセコム本社ビルで、共同で記者説明会を行い、旭硝子の高品質塗料を取り扱う外壁リフォーム認定施工店「メイクupショップ」の全店600カ所で、「セコム・ホームセキュリティ」の紹介・取次ぎを行うことで合意したことを発表しました。



セコムと旭硝子が共同で行った記者説明会のようす

「メイクupショップ」では、外壁などの品質にこだわる、いわゆる「本物志向」のお客様を主要顧客としています。こうしたお客様は、お住まいの住宅を大切に考えているため「住宅の安全」に対しても関心が高く、また、リフォームは住宅の防犯の強化を考えるきっかけにもなることから「セコム・ホームセキュリティ」にも大きな需要が見込めます。両社にとって相乗効果を発揮できる市場として、今回の提携に至りました。

セコムは、これまでも各ハウスメーカーとの提携による新築住宅市場の開拓、また、ホームセキュリティ専門店「セコムショップ」を全国で71店舗を展開して既築住宅市場の開拓を行ってきました。さらに、今回の提携により、全国600店の「メイクupショップ」で販売網が一挙に拡大したことで、新たに住宅リフォーム市場の開拓に本格的に取り組んでまいります。

住宅リフォーム市場は年々拡大し、2010年には8兆円に達すると推定されています。今後、両社ブランドの相乗効果で、リフォーム住宅にも、高機能・高品質なセキュリティサービスの普及を推進していきます。

## セコムが戸建住宅で東急ホームズ(株)とマンションで(株)大京アステージと提携

セコムは、今年4月に「セコム・ホームセキュリティ」の拡販に向けた提携を相次いで行いました。戸建では東急ホームズ、マンションでは大京グループの大京アステージと、それぞれの相乗効果が期待できる分野での市場開拓を推進します。

東急ホームズが4月に首都圏13カ所58棟にオープンした「クラストサイト」は、①試泊が可能、②展示棟を建売販売、③常に最新仕様を展示し、“見て、体験して購入していただく”を目的にした、新しいコンセプトのモデルハウスです。

セコムは東急ホームズと提携して「クラストサイト」内の4カ所に4棟の「セコム・ホームセキュリティ」の多機能モデル「グランデ」を採用した防犯住宅を展示しています。

このモデルハウスでは、ホームセキュリティのほかに、監視カメラ（センサーライトカメラ）や顔検知機能の付いた「セキュリフェースインターホン」、さらに収納内には家庭向け防盜金庫「ホームピタゴラス」を標準装備するなど、建売住宅としては、今考えられる最高レベルのセキュリティを実体験できる場となっています。

また、マンション管理戸数で業界トップである大京アステージでは、管理を受託している33万戸を超える既存

マンションを対象にセコムのホームセキュリティをベースとした新たなサービス「セキュアプラス」を今春より展開しています。

セコムは、大京アステージと提携し、「セキュアプラス」を通じ、居住者からニーズの高い各住居へのセコムのホームセキュリティ導入を促進していきます。

## 幅広い監視カメラのニーズに応えるため新型CCTV「HVRシステム」を販売開始

セコムは昨年12月、セコムのセキュリティ・ノウハウを結集した新しい監視カメラシステムの販売を開始しました。

このシステムは「HVRシステム」と名付けられ、デジタルとアナログカメラの混在を実現したハイブリッド設計が特徴です。1システムあたりで最大16台までのカメラ接続ができ、システムの主装置1台で、ハードディスクへの記録はもとより、モニター出力、カメラへの電源供給まで行うことができ無駄なスペースをとりません。

これにより、さまざまなお客様の監視用途に応じた、拡張性の高い柔軟なシステム構成が可能となりました。また、圧倒的な長時間記録も可能になり、長時間記録を要求される金融業界や流通業界にも最適なシステムとなりました。

セコム独自のセキュリティ基準により設計されていることから、カメラへのいたずらや妨害行為があった場合にも異常を感知するセコム独自の画策防止機能、無資格者の不正な操作を無効にするモードロック機能、万一の画像消失に備えて2つのハードディスクに同じ画像を記録するミラーリング機能を標準装備するなど高い安全性を備えたシステムです。セコムの双方向遠隔画像監視システム「セコムIX」とオンラインで接続することも可能で、より強固なセキュリティ環境を構築することができます。

セコムは「HVRシステム」を積極的に市場に提案し、ますます多様化する監視カメラへのニーズにお応えしていきます。



「HVRシステム」



建売住宅としては最高レベルのセキュリティが体験できる「クラストサイト」

## 「社会システム産業」の実現に必要な先端技術の研究開発を行う

セコムIS研究所は「社会システム産業」の実現に必要な先端技術の研究をミッションにしています。研究領域は、フィジカルセキュリティ、サイバーセキュリティ、メディカルに分かれ、それらすべての研究の核になる「基盤技術」をベースに、インターネットなどの社会インフラをセコムのサービスに活かす「インフラ技術」、セコムグループのサービスに直結した「アプリケーション」の研究を行っています。

研究は、社会動向や犯罪動向、最先端技術動向などの情報収集と調査から始まります。その際の視点は、「人々が不安を感じたり、困ったりしていることは何か」「将来、セコムグループにとって必要となる技術は何か」です。次に、集めた情報を元にセコムが取り組むべき「問題」を抽出します。そして、解決策を考え、「サービスイメージ」を描き、研究に着手します。数年前、インターホンが鳴ったため不用意にドアを開け、強盗に押し入られるという事件が頻発したとき、この「問題」の解決のためにイメージしたのは、インターホン自体が、

セコムグループのサービスシステムを技術力で支える、研究開発・製造・設置工部門をシリーズでご紹介します。第1回は、最先端技術の研究開発を担当しているセコムIS研究所です。

不審者かどうかを見極め、不審者と判断したらドアを開けないという機能を持つことでした。研究者はそのイメージを形にするため、アルゴリズムを考え、試作機を作り、いろいろな条件を設定して評価(テスト)を繰り返し、開発センターと共同で商品化しました。それが、顔検知機能付きインターホン「セキュリフェースインターホン」です。

研究成果が活かされたものとしては、このほかに、画像センサーを利用したオンライン安全システム「セコムAX」、屋外巡回監視ロボット「セコムロボットX」、大規模施設向け総合安全管理システム「トータックスZETA」、遠隔画像診断支援システム「ホスピネットPACS」などがあり、いずれもご契約先から高い評価を得ています。

IS研究所では、「より安心で便利で快適な社会」の実現に向けた研究課題に取り組む一方、培ってきた人材と技術を活用して広く社会に貢献するため、多方面の分野の団体・研究機関での活動にも積極的に参画しています。

#001

サービス業のテクノロジー  
セコムIS研究所



研究所中のIS研究所員



ホスピネットセンター



IS研究所があるセコムSCセンター

## セコム女性社員5名によるプロジェクトチーム 「セコム株式会社 働く女性の安全委員会」が発足

今年3月、働く女性を対象とした防犯対策本『ライフスタイルWoman360°』が、本の泉社から発刊されました。

これは、セキュリティのプロとしての立場と、働く女性の立場の双方から、  
セコム女性社員のチームが企画・執筆した、女性向け防犯本の“決定版”です。

### 若い女性の危機意識の低さに警鐘

近年、女性の社会進出が進むとともに、とくに働く女性に対する犯罪は増加の一途を辿っています。テレビや新聞で始終事件が報道されているにもかかわらず被害に遭う人があとを絶たないのは、いかに自分の身に置き換えて考える人が少ないかを物語っており、セコムとしては、そうした危機意識の低さに対して安全意識の啓蒙が必要と考えました。

そこで、主に20～30代の働く女性のライフスタイルを、防犯という視点から考えることを目的に、同じ年代の働く女性であるセコム女性社員5名を中心にし、アドバイザーとして、実際の防犯現場に役立つ研究に日々取り組んでいる、セコムIS研究所の2名を加え、新しいプロジェクトチームを発足させました。

### 防犯本を布石にさらなる啓蒙活動を

活動として、3月発刊の女性向け防犯本『ライフスタイル



Woman360°』を企画・執筆し、全国有名書店を中心に販売開始しました。セキュリティのプロであるセコムが、女性の立場から書いたこの本には注目が集まり、新聞各紙や女性誌、テレビ・ラジオなど、多数のメディアで、防犯対策関連記事とともに紹介されました。また、書店での防犯グッズの販売・防犯セミナーのイベントも行い、防犯意識向上の啓蒙に一役買っています。

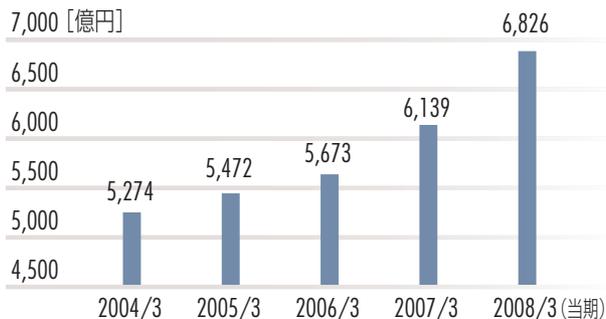
6月末には「セコムウェブサイト」内に、WEBコンテンツ『女性のためのあんしんライフnavi』を開設。より多くの方々に、手軽にアクセスしてもらい、さらなる啓蒙をめざします。

### 『タイプ別にみる働く女性の防犯対策 ライフスタイルWoman360°』

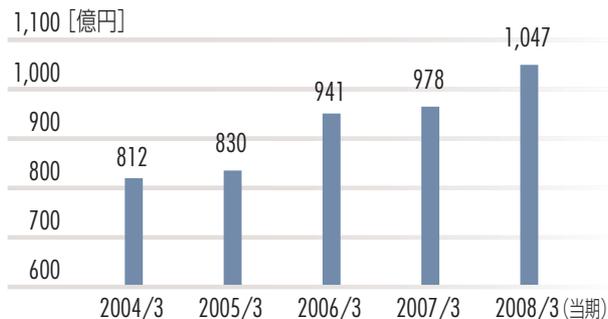
執筆者: セコム株式会社 働く女性の安全委員会  
発行: 本の泉社  
定価: 840円(税込み)  
判型: 新書版 80ページ

## 連結決算 業績ハイライト

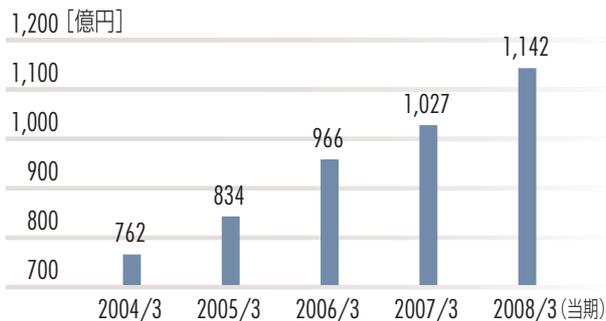
### 売上高



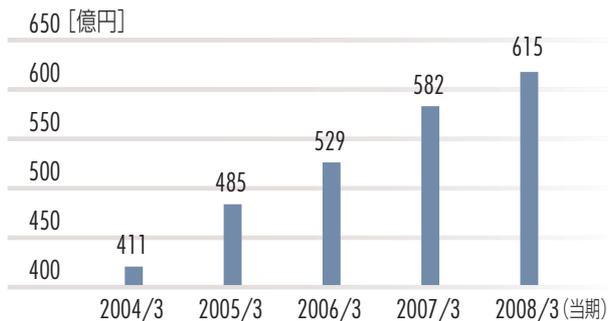
### 営業利益



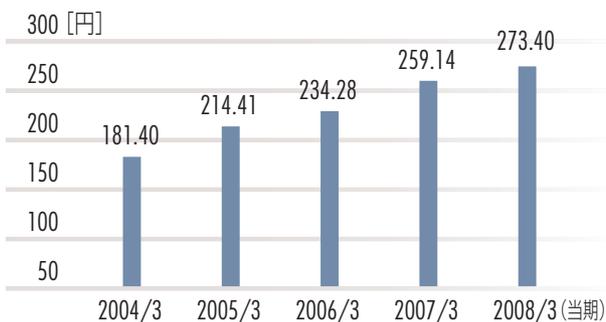
### 経常利益



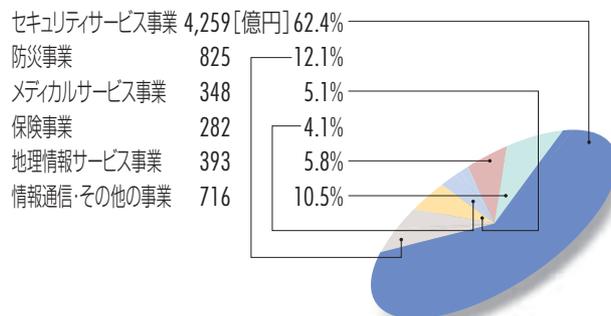
### 当期純利益



### 1株当たり当期純利益



### 事業別売上高内訳



# 連結貸借対照表(要旨)

2008年3月31日現在

<単位: 億円> \*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

## 資産の部

<b>流動資産</b>	<b>5,475</b>
現金及び預金	2,004
現金護送業務用現金及び預金	636
受取手形及び売掛金	855
未収契約料	211
有価証券	93
たな卸資産	270
販売用不動産	902
繰延税金資産	118
短期貸付金	72
その他	310
<b>固定資産</b>	<b>6,549</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>2,653</b>
建物及び構築物	845
警報機器及び設備	654
土地	817
その他	336
<b>無形固定資産</b>	<b>223</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>3,672</b>
投資有価証券	2,419
長期貸付金	545
前払年金費用	178
繰延税金資産	227
その他	301
<b>繰延資産</b>	<b>3</b>
<b>資産合計</b>	<b>12,028</b>

## 負債の部

<b>流動負債</b>	<b>3,197</b>
支払手形及び買掛金	304
短期借入金	1,360
一年以内償還予定社債	19
未払金	289
未払法人税等	246
前受契約料	320
その他	656
<b>固定負債</b>	<b>2,528</b>
社債	135
長期借入金	200
預り保証金	325
退職給付引当金	160
保険契約準備金	1,623
その他	83
<b>負債合計</b>	<b>5,725</b>

## 純資産の部

<b>株主資本</b>	<b>5,805</b>
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	4,759
自己株式	△448
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△133</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>630</b>
<b>純資産合計</b>	<b>6,302</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>12,028</b>

## 連結損益計算書(要旨)

<単位: 億円> \*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当期 (2007年4月1日から 2008年3月31日まで)	前期 (2006年4月1日から 2007年3月31日まで)	増減率
売上高	6,826	6,139	11.2%
売上原価	4,330	3,887	11.4%
<b>売上総利益</b>	<b>2,495</b>	<b>2,251</b>	10.8%
販売費及び一般管理費	1,448	1,273	13.8%
<b>営業利益</b>	<b>1,047</b>	<b>978</b>	7.0%
営業外収益	201	150	33.4%
営業外費用	105	102	3.4%
<b>経常利益</b>	<b>1,142</b>	<b>1,027</b>	11.3%
特別利益	27	26	5.6%
特別損失	49	33	50.2%
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>1,120</b>	<b>1,020</b>	9.8%
法人税、住民税及び事業税	426	399	6.6%
法人税等調整額	26	△ 6	502.1%
少数株主利益	52	44	19.8%
<b>当期純利益</b>	<b>615</b>	<b>582</b>	5.5%

## 営業の概況(連結)

近年の治安の悪化や凶悪犯罪の頻発などを背景に、安全・安心に対する社会的ニーズはますます高まり、その内容もさらに多様化・高度化しています。このような状況の中、セコムグループは、社会にとって安全・安心で、便利で快適なサービスを創造し、これらを複合的・融合的に提供する「社会システム産業」の本格展開に向けて取り組んでいます。セキュリティサービス事業をはじめ、防災事業、メディカルサービス事業、保険事業、地理情報サービス事業および情報通信・その他の事業をそれぞれ拡充し、安全・安心を求める社会のニーズに応えるように努めました。

これらの結果、当連結会計年度における連結売上高は、6,826億円(前期比686億円、11.2%の増収)、連結営業利益は1,047億円(前期比68億円、7.0%の増益)、連結経常利益は1,142億円(前期比115億円、11.3%の増益)、連結当期純利益は615億円(前期比32億円、5.5%の増益)となりました。

<参考> ●連結子会社数 163社  
●持分法適用関連会社数 31社  
●1株当たり当期純利益 273円40銭

## 連結株主資本等変動計算書(要旨)

2007年4月1日から2008年3月31日まで  
<単位: 億円> \*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2007年3月31日残高	663	830	4,326	△448	5,372	28	609	6,011
剰余金の配当			△179		△179			△179
持分法適用関連会社の連結範囲の変動に伴う減少			△ 2		△ 2			△ 2
連結 会計年度中 の 変動額			615		615			615
自己株式の取得				△ 0	△ 0			△ 0
自己株式の処分		0		0	0			0
株主資本以外の項目(純額)						△161	20	△141
連結会計年度中の変動額合計	-	0	432	△ 0	432	△161	20	291
2008年3月31日残高	663	830	4,759	△448	5,805	△133	630	6,302

## 貸借対照表(単体・要旨)

2008年3月31日現在

<単位: 億円>

\*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

### 資産の部

<b>流動資産</b>	<b>1,943</b>
現金及び預金	771
現金護送業務用現金及び預金	608
未収契約料	116
売掛金	67
たな卸資産	72
短期貸付金	181
その他	125
<b>固定資産</b>	<b>4,787</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>1,169</b>
建物	219
警報機器及び設備	624
土地	259
その他	66
<b>無形固定資産</b>	<b>77</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>3,541</b>
投資有価証券	286
関係会社株式・出資金	1,959
長期貸付金	748
長期前払費用	261
前払年金費用	137
繰延税金資産	67
その他	79
<b>資産合計</b>	<b>6,730</b>

### 負債の部

<b>流動負債</b>	<b>1,271</b>
買掛金	27
短期借入金	304
未払金	144
未払法人税等	158
預り金	312
前受契約料	229
その他	95
<b>固定負債</b>	<b>243</b>
預り保証金	181
退職給付引当金	50
役員退職慰労引当金	10
<b>負債合計</b>	<b>1,515</b>
<b>株主資本</b>	<b>5,216</b>
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	4,170
自己株式	△ 448
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△ 0</b>
その他有価証券評価差額金	△ 0
<b>純資産合計</b>	<b>5,215</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>6,730</b>

### 純資産の部

## 損益計算書(単体・要旨)

2007年4月1日から2008年3月31日まで

<単位: 億円>

\*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

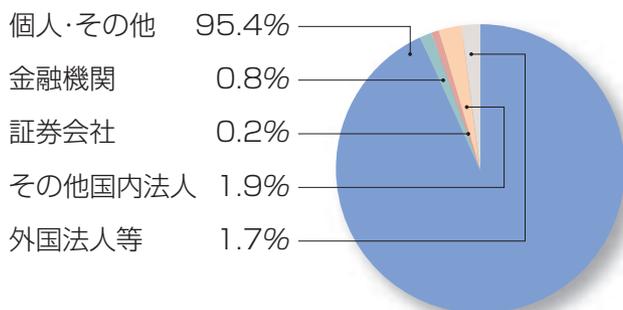
売上高	3,376
売上原価	1,924
<b>売上総利益</b>	<b>1,451</b>
販売費及び一般管理費	710
<b>営業利益</b>	<b>741</b>
営業外収益	96
営業外費用	45
<b>経常利益</b>	<b>791</b>
特別利益	22
特別損失	5
<b>税引前当期純利益</b>	<b>808</b>
法人税、住民税及び事業税	292
法人税等調整額	15
<b>当期純利益</b>	<b>500</b>

<参考> ●1株当たり当期純利益 222円46銭

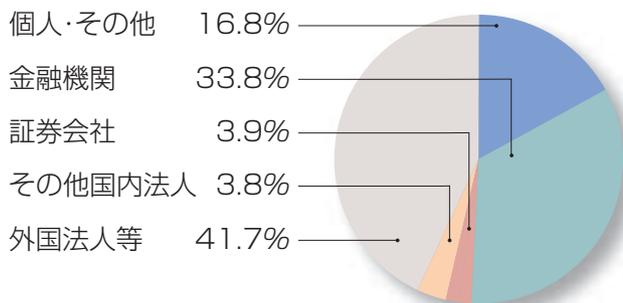
## 株式の状況 (2008年3月31日現在)

1. 発行可能株式総数	900,000,000株
2. 発行済株式の総数	233,288,717株
3. 単元株式数	100株
4. 株主数	28,512名
5. 所有者別状況	

### ●株主数比率



### ●株式数比率



## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月下旬
- 剰余金配当の基準日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 公告方法 電子公告  
<http://www.secom.co.jp/koukoku/>  
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部  
 大阪証券取引所市場第1部
- 証券コード 9735
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同事務連絡先 〒137-8081  
 [お問い合わせ先] 東京都江東区東砂7丁目10番11号  
 [郵便物送付先] 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

### ●ご案内

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取請求・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続き依頼書のご請求は、上記株主名簿管理人のフリーダイヤル **0120-244-479** (自動音声対応) またはホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/> で24時間承っております。
- 配当金をゆうちょ銀行の貯金口座またはその他銀行の預金口座へお振り込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので上記株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。

## 会社概要

### セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100 Fax: 03-5775-8902

- 資本金 66,377百万円
- 社員数(グループ総数) 47,018名(2008年3月31日現在)
- 事業内容

1962年、日本初のセキュリティ会社として創業。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年からは、移動する人物・車輜向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システム、各種安全商品などの販売を通じて、社会に安全・安心を提供しています。

セコムグループは、現在、安全システムの普及を通じて培ってきた情報通信ネットワークをベースに、安全・安心で、便利で、快適なサービスシステムを創造し、それらをトータルに提供する「社会システム産業」の構築をめざしています。

### 取締役(2008年6月26日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
取締役(最高顧問)	戸田壽一
取締役会長	木村昌平
代表取締役社長	原口兼正
常務取締役	小林清一郎
常務取締役	桑原勝久
常務取締役	前田修司
常務取締役	中山泰男
常務取締役	佐藤興一
取締役	小幡文雄
取締役	伊東孝之

### 監査役(2008年6月26日現在)

監査役(常勤)	荻野輝雄
監査役	常松 健*
監査役	安田 弘*
監査役	山下耕平*

\*印の3氏は社外監査役であります。

### 執行役員(2008年6月26日現在)

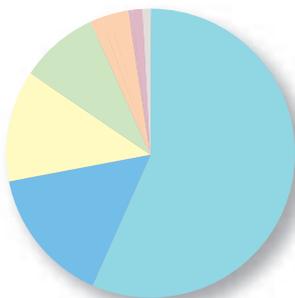
代表取締役社長	原口兼正
専務執行役員	秋山勝夫
常務取締役	小林清一郎
常務取締役	桑原勝久
常務取締役	前田修司
常務取締役	中山泰男
常務取締役	佐藤興一
常務執行役員	井東雄志郎
常務執行役員	森 誠一
常務執行役員	坂本正治
取締役	小幡文雄
執行役員	伊藤 博
執行役員	小河原俊二
執行役員	杉井清昌
執行役員	高岡 実
執行役員	知野吉弘
執行役員	佐々木 守
執行役員	森下秀生
執行役員	小松崎常夫
取締役	伊東孝之
執行役員	小松良平

## 「株主アンケート」結果ご報告

2007年12月の株主通信(第47期中間決算報告)に同封のアンケートに対し、4,000名を超えるご回答をいただき、誠にありがとうございました。  
アンケート結果ならびに貴重なご意見の一部につきまして、以下の通り、ご報告いたします。  
また、今回のアンケート結果は、今後の経営やIR活動に役立てていく所存です。

### 当社株式の今後の保有方針について お聞かせください。

● 長期保有(5年以上)	55.8%
● 買い増し	17.1%
● 中期保有(1~5年未満)	13.4%
● 未定	8.8%
● 売却予定	2.6%
● 売却済み	1.6%
● 短期保有(1年未満)	0.7%



### 当社に関して、もっとお知りになりたい 情報は何ですか?(複数回答可)

株主還元方針	2453名	35.3%
今後の事業計画	2002名	28.8%
新サービス・新製品	1124名	16.2%
業績・財務について	682名	9.8%
経営方針・理念	604名	8.7%
その他	88名	1.2%

皆様より様々な  
ご意見・激励のお言葉を  
いただきました。

- 「法令遵守」という当たり前のようで難しいことを愚直に守る、まじめな会社であってほしい。
- 昔からの株主です。セコムの株主でよかったと思い続けることのできるよう、頑張ってください。
- セコムしかできないセコムだけといわれることや、他社に真似できないことをやってほしい。
- 「セコムの芯となる考え方」を読んで、「土台になるのは法令遵守」を実行されていることだと知って心強く思いました。

### 表紙写真のご説明

セコム  
SCセンター  
(東京都三鷹市)

セコムの研究・情報・医療の拠点として1996年に竣工。IS研究所、ココセコムオペレーションセンター、セコムトラストシステムズ(株)、ホスピネットセンターなどが入っています。正面玄関横の桜の木は樹齢百年以上とも言われ、三鷹市の保存樹となっています。春には見事な花を咲かせて近代的なデザインの外観に鮮やかな色を添えます。

